

様式第 2 号

視察研修先	神奈川県茅ヶ崎市議会	氏 名	阿部 清
視察研修項目	1. 一般質問における重複質問の調整について 2. 各委員会での政策討議について		
感想・所見など			
<p>視察目的</p> <p>茅ヶ崎市議会では、1. 令和元年に一般質問重複問題について、議長から諮問があり議会運営委員会で協議し、試行実施後に本導入している。2. 各委員会での政策討議について、視察や各団体との意見交換などによる意見を集約して、政策討議から政策提言までの流れについての研修を行った。</p> <p>茅ヶ崎市概要</p> <p>茅ヶ崎市は、神奈川県の中南部に位置し、本市と姉妹都市である寒川町と隣接しており、浜降り祭の時を思い出す。相模湾は海岸線 6 k m に及んでいる。市域は海岸線から北部に拡がり、湘南砂丘となだらかな丘陵からなっており、気候は四季を通じて温暖で、夏涼しく冬暖かい、年間平均 17 度と自然に恵まれた地域である。</p> <p>感 想</p> <p>1. 一般質問における重複質問の調整について</p> <p>角田議会事務局長から挨拶をいただき、担当課から、一般質問で内容の調整が難しい重複調整について説明を受けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茅ヶ崎市では、一般質問は住民を代表して行うものであり、前の議員が質問したことを後の質問することは考えられない事である。当局側の答弁も繰り返しになる事を受け、令和元年 4 月定例会に、重複質問の調整を実施し、議長から議会運営委員会に諮問、重複質問の調整を指示している。当初の仕組みは、通告書提出時に、他の議員が提出した通告書を閲覧し周知を図る。重複があった場合は、議員間で調整を行い、通告書の訂正をお願いしていた。令和 2 年第 3 回定例会から仮通告書の運用計画を立て、仮通告書一覧を議員に資料配布し、議会運営委員会で協議し、本通告書を提出する試行を実施する。議会運営委員会では、毎定例会後に反省を振り返り、申し合わせ事項を作成し、令和 3 年第 4 回例例会から 4 回の試行実施後、本導入を決定して実施している。</li> <li>・会派代表質問の実施について</li> </ul> <p>会派代表が、市長の政策方針と予算議案に対する質疑を会派ごとに、第 1 回定例会に総括質問を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重複調整の課題の Q&amp;A</li> </ul> <p>Q、重複質問の調整について、どの程度までか。</p> <p>A、同じ内容が答弁されることの無いよう、項目が重複した場合は、角度や観点を变えて、重層的な質問が出来るよう調整します。</p> <p>Q、重複調整の課題は。</p>			

A、仮通告を導入したことで、調整がスムーズになった一方で、早期に質問項目を提出する義務が生じたことで、内容変更や項目追加が制約されているとの意見があります。

まとめ

議員にとって一般質問は、まちの課題に取り組む政治家として、市民生活の基盤や、町の課題に対しての一般質問である。議員各位の一般質問に対する熱意が重複質問に繋がっていることも感じており、重複質問に対しては、質問の切り口を変えながら、落としどころを見つけていくことも大事な所かなと思っている。

## 2. 各委員会での政策討議について

視察や関係団体との意見交換会や懇談会を踏まえた政策討議から政策提言に至るまでの行動についての説明を受けた。

・茅ヶ崎市議会には、4つの常任委員会があり、各委員会でテーマを選定し、調査研究し、各委員会で政策討議を行い、各委員会が素案を作成している。素案確定後に、全員協議会で常任委員会から全議員に説明し、意見交換を行い、市議会としての政策提言書とすることを諮る。指摘事項があれば委員会で修正し再提出をする。委員会案を議長に提出し、議会の提言書となり、議長から市長へ提言書を提出する流れとなる。 ※条例案の場合は、議会議案として議決となる。

<常任委員会の現在取り組み中の政策討議テーマ> (令和3年~4年度)

総務常任委員会・・・新たな社会の仕組みに対応する行政運営及び組織運営について

都市経済常任委員会・・・茅ヶ崎市の魅力ある資源を活かしたまちづくり

～市民が誇れる緑の景観の形成～

文化教育常任委員会・・・子供たちが主体的に生きるための総合的な取り組みについて

環境厚生常任委員会・・・誰もが安心して自分らしく生きるために

～持続可能な地域福祉に向けて～

<環境厚生常任委員会の取り組み事例>

中学2年生の生徒と保護者を対象に、政策提言の地域福祉調査研究のために、高齢者介護に関するアンケートを実施(1人1台端末からGoogleアンケートフォームにアクセスして回答) 問 介護の仕事を将来したいですか。

回答数 ◇生徒: 1,876名(92.3%) ◇保護者: 402名(19.8%)

アンケート集計を画面化し、Googleフォームの機能により、集計結果を自動でグラフに表して、様々な意見を集約している。

・茅ヶ崎市議会の委員会任期は、2年のため、2年かけて提言書を作成し、視察もテーマに沿った形で行っている。また、茅ヶ崎市議会公式YouTubeチャンネルを配信し、各常任委員会の情報を提供している。

まとめ

茅ヶ崎市議会では、各常任委員会が政策提言の取り組みをしており、各委員会が政策討議のテーマを持ちながら平成6年から取り組んでいる。様々な角度から調査研究しており、視察研

修もテーマに沿った研修をしている。本市議会においても、各関係団体との意見交換会や市民との意見交換会を含め、様々な角度から政策討議を調査研究していくことの必要性を感じてきた。

様式第 2 号

視察研修先	茨城県取手市議会	氏 名	阿部 清
視察研修項目	1. オンラインを利用した議会運営の取り組みについて 2. ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて		
感想・所見など			
<p>視察目的</p> <p>本市では、2017 年から議会の事務作業の効率化や会議の円滑化、コスト削減を目的にタブレット端末を導入しており、8 年目を迎える。ICT の活用した議会運営が進んでいる。本市議会でもオンラインでの会議開催や災害対応について、取手市議会の先進的な取り組みを視察し、今後の参考にするものである。</p> <p>取手市概要</p> <p>茨城県の南部の玄関口であるとともに、東京・成田、つくば、を結ぶ三角形のほぼ中央に位置し、交通の要となっており、交通の利便性と自然環境に恵まれた人口 106,143 名、市議会議員定数 24 名のまちです。</p> <p>感 想</p> <p>取手市議会の金沢議長から挨拶をいただき、事務局次長岩崎氏から説明を受ける。早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度ランキング、2 年連続日本一という評価を得ている。このコロナ禍の中においても、オンラインを活用して、様々な会議を持ちながら、市民の声を執行部へ提言し、議会の機能を維持してきたことが評価されている。</p> <p>1. 取手市議会におけるオンラインを活用した取り組みについて</p> <p>取手市議会は 6 つの目的で活用</p> <p>①会議 コロナ禍によりオンラインによる公式委員会を 50 回開催している。また、提出議案事前説明は市長と議員が向き合うことなく、召集前の 7 日前に招集告示がなされ、その 3 日後に誰もいない議場で、市長がカメラに向かって、議案番号順に、提案理由を委員会で述べるレベルまで事前に説明を行います。開会日の 8 時 30 分には、ホームページにアップされ、世界中、どこでも、インターネットを使えば見ることが出来る。議員は、ライブ配信を自宅で見たり、仕事で見られない時は、YouTube 配信を自宅で視聴したり、文字でも見れる。</p> <p>②現地視察 体育館の補強工事実施業務委託料に関して、議員が現地に行かず職員が事前に現地調査をして、議員はオンラインで確認する。今までは、公用車 3 台で 1 時間半かけていて現地視察をしていたが、このやり方だと 8 分で現場を知ることが出来る。</p> <p>③広報・広聴 市民や市 P 連、医療従事者の皆様の意見を聞く、意見交換会を開催、課題を市議会感染症対策会議の議題とし、執行機関に提言する。令和 2 年 8 月にタブレットを導入し、同年 10 月の市制施行 50 周年にあたり、お祝いのビデオメッセージを作成し、全体のレベルを上げている。</p>			

④研修 オンラインでの視察の受け入れやオンライン研修、オンライン視察を行っているところ。

⑤ペーパーレス ペーパーレスにより、職員の仕事を大きく変えることが出来ました。議会の資料づくりが無く、時間外の仕事的大幅に軽減されている。議会改革の取り組みは、風土が出来上がっている。議会全体として、議員全員が一丸となり、進む速さは素晴らしい。とにかくやってみようという気持ちが強く、もしダメだったら、また、違う方法を探そうの気持ちで、タブレット2年目で先進的な取り組みをしている。また、「市役所には多くの職員がおり、様々な才能を持った職員がいる。その才能を引き出してやるのも我々の仕事」と当たり前のように言っている。高齢者になるとICTになじめないベテラン議員が多いようで、事務局が、積極的にタブレット操作の研修会を開いて、操作向上に務めており、出来ない議員は居残りで操作の特訓を受けて、わからない所は何回も聞いて覚えている。事務局の提案を受け入れる姿勢も議員側に必要であるとの説明があった。

## 2. ICTを活用した市議会の危機対応の取り組みについて

ICTを活用した議会災害対応訓練では、議員には訓練日だけを通知、発災時間は議会事務局長だけ承知しており、議長も知らず、事務局長の「地震だー」の一声から訓練のスタートになる。市議会災害対応規定に沿って、安否確認・市議による情報収集と共有・タブレットで現場写真を撮影・GPSをONにして、位置情報が記録された画像をGoogleマイマップに落とし込む・Zoom会議など、デジタルマップを活用した情報整理を行い、有効活用や災害有事に備える訓練である。

### まとめ

今回の、取手市の視察研修は、目から鱗であった。まだ、オンラインを活用して2年目にも拘わらず、様々な取り組みに積極的に挑戦している。まず、議員たちのやる気が溢れている。説明でもあったが、何でも挑戦しやってみる事の大切さが伝わる。ダメなら、また、違う方法を探ることが大切という。本市議会においても、前向きに取り組む姿勢が求められると考える。取手市の議会事務局の積極的な態度は、好感が持てた。